

FirstGlobal メッセージ

siesta

2017.9月号 vol.172

発行元：〒540-0012

大阪府中央区谷町1-6-4

天満橋八千代ビル10階

(株)ファーストグローバルコンサルティング

代表取締役

戦略人事コンサルタント 品川典久

TEL 06-6910-3007 FAX 06-6910-3008

Email shinagawa@1gc.jp

URL <http://www.1gc.jp>

今月のトピックス

バレルゾーン

本題も野球ネタで恐縮ですが、興味ない方も少しだけお付き合い下さい。「バレルゾーン」ってご存知でしょうか？おそらくご自身またはご親族が野球をやっている、ほとんどの方がご存知ないと思います。今、MLB（メジャーリーグ）中継では、「Statcast」というシステムを導入して、選手の打球速度、打球角度、スピン量など瞬時に表示しています。たとえばスピン量は、投手のボールの回転量を表すもので、昔からよく「手元でホップする」という、なんとなくの感覚をはっきりと数値で表しています。おそらく、大リーグは力と力のぶつかり合い、というイメージを持っている方も多いと思いますが、完全にデータ重視の野球が全盛です。「バレルゾーン」というのは、話せば長くなるのですが、簡潔に言いますと、データ解析によって、打球の初速が98マイル（約158km）/h、打球角度が26～30度で捉えた場合、最もホームランが出る確率が高い、というものです。解析によってホームランを生み出すために「打球を上げること」の有効性が実証され、多くの打者がこうした数字をもとに練習や研究に取り組んだ結果、覚醒した打者が続出しました。野球界の常識では、昔からフライを上げやすいアップスイングは否定されがちでしたが、真逆の常識です。

現在、「生産性向上」が国を挙げての命題になっています。しかし、単にもっともって効率を上げろ、と経営者や上司が鼓舞しても社員のパフォーマンスは上がりません。絶対的に必要なのは、明確な理屈の裏付けを伴った方法論の追求だと思います。成果は行動の集積です。そのためには上記のような数字、数値の裏付けに基づく指導や評価が必要です。「成果主義」というと、一時席卷した負のイメージをお持ちのビジネスマンは多いかもしれませんが、明らかにこれからは「成果主義」にシフトしていきます、いやシフトしていかないと企業は存続できません。そこには明確な数値化による基準が必要です。ただ、「理」だけではうまくいきません。「情」も大切です。情と理、うまく使い分けていきましょう。

< next >

松居一代さんの動画はワイドショーで見たぐらいですが、良し悪し含め、SNSは本当に怖いですね。「良い使い方」というのは使わないことになってしまうのかもしれませんが、松居さんの話題は食傷気味ですが、また爆弾は落とされるのでしょうか？気になります。